

〔讀史餘論〕謹按鎌倉殿○源朝天下の權を分たれし事は、平清盛武功によりて身を起し、遂に外祖の親をもて、權勢を專にせしによれり、清盛かくありし事も、上は上皇の政みだれ、下は藤氏累代、權を恣にせしに倣ひしによれる也。

〔日本外史〕外史氏曰、○中略世稱清盛功不償其罪、舉不臣者、輒以爲稱首、而不知相家不臣已什倍、清盛、清盛蓋視而學之、否則何遽至此、詩云、唯其有之、是以似之、自相門之專權也、后皆其女、天子皆其女之所生、而卿相皆其子弟親屬、苟非其族、類鋤而去之、雖皇族不能免焉、甚則易置其主、視猶奕棋、清盛所爲、無一不似彼己氏者、而加以鷙悍其意、曰、以無功之人、猶擅權寵如此、吾之有大造於王室、何爲而不可、世以其拔輿之無漸、羣起咎之、而不言有爲之師者焉、且清盛所以至此、由後白河帝養成其勢爾、夫名爵公器、不可私用、人臣而私名爵、是負其君也、人君而私名爵、是負其先王也、帝濫授先王之名爵於清盛、藉以濟其私焉、而長其負功邀上之心、至於不可制、將誰咎哉、雖然、成平氏之勢者、不獨始於帝也、初忠盛受寵於白河鳥羽、連進官爵、人以爲不次、蓋朝廷倚其力、以抑源氏、抑源氏所以殺相家之權也、源氏自滿仲賴光、每爲相門之爪牙、攝政兼家之驢花山也、源賴信實悍衛道、途降至文治之際、朝廷疑關白兼實之助源賴朝、亦非以其世相黨援哉、由是觀之、延平宗以杭相門、院政廟論、所相傳承、其猶寬平之擢任菅氏邪、文武雖異、其意一也、以菅公之賢、猶不能無戀權之意、平氏除重盛之外、皆不學無術、其矜功擅寵、進不知止、曷足尤焉、假設重盛後父而死、盡反其所爲、戒飭子弟、輔翼王室、則雖接踵比隆於藤原氏、可也。

〔平家物語十二〕平大納言のながされの事

平大納言時忠の卿は、○中略出羽のせんじともものぶがまご、どう左大臣ときものぶの子なりけり、故建春門院の御兄、高くらの上皇の御やわいせき、又入道相國○平清盛の北のかた、八條の二位殿もあねにておはしければ、けんくわんけんまよく思ひのごとく、心のまゝなり、されば正二位の大納